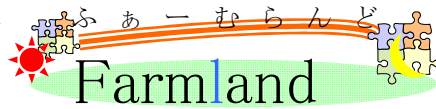




会報



臨時号

平成 26 年 11 月

## 外来種の駆除「セイタカアワダチソウ」 資源向上支払（地域資源の質的向上を図る共同活動） 実践活動 生態系保全

※発生が揃った段階で茎葉処理剤（グリホサート剤）を多年生雑草対象の薬量にて茎葉散布することで、茎葉部に繋がった地下茎まで枯らしてしまいうことが出来る。

※薬液散布時には、専用の発泡ノズルを使用するなど、必ず飛散防止対策を行うこと。

※生育盛期（草高 1m以上）の場合は、一度刈り込みを行い、再生後に茎葉散布する。

※立ち枯れした残渣が気になる場合には、枯れ始めた段階で刈り込みを行っても良い。

※除草剤処理後に再生してくる株については、秋には黄色い花を、春には赤い茎を目印に抜き取りを行う。その際、できるだけ地下茎をつけた形で抜き取るようにする。

※イネ科植生中（法面など）に多数発生した場合は、メトスルフロンメチル顆粒水和剤を多年生広葉雑草対象の薬量にて茎葉散布することで、発生していたセイタカアワダチソウを枯らし、イネ科植物を優占化させることができる。



### セイタカアワダチソウの意外な効果

セイタカアワダチソウを使った入浴剤には、アトピーを改善できる凄い効果がある。薬害、公害や食品添加物等の害を体の外に排出してくれる効果があり、アトピー性皮膚炎だけでなく、喘息、リュウマチ、膠原病、人工透析をしている腎臓病のなどに対して、改善が期待できる。更に、保温効果、浄血、胃腸病などにも効果がある。また、使用方法には、セイタカアワダチソウのオイル、セイタカアワダチソウのお茶、セイタカアワダチソウの入浴剤、として使用できます。

### セイタカアワダチソウ入浴剤の作り方

- ①黄色の花が咲く直前のつぼみの状態のセイタカアワダチソウを収穫します。  
(使うのは上から 30cm 位。)
- ②天日干しにします。約 4～5 日位。(カラカラになるまで)
- ③乾燥後、細かく切って袋に詰めます。お茶のパックなんかを使用すると便利です。

セイタカアワダチソウのつぼみの時期は、1 年に 1～2 週間程度。収穫チャンスを逃さないように。

セイタカアワダチソウには酵素が含まれていて、酵素をしっかりと湯に出すためには、最低 2 日、できれば 3 日は湯船に入れて使用しなければなりません。又、酵素は 48 度以上になるとダメになると言われていますのであまり熱いお湯には使用しないほうがいいでしょう。そして、体に良い事の他には、お湯が全然ヌルヌルしない。更に嬉しい事は、この入浴剤を使用していると、排水口がキレイになる。(排水口の又メリとりにも効果あり。)



## グランドカバープランツ（地被植物）の設置 資源向上支払（地域資源の質的向上を図る共同活動） 実践活動 地域環境保全

### 従来の畦畔、法面の雑草管理方法

- ①除草剤によって雑草を粘殺したり発生を防止したりする方法
- ②植物生長調節剤によって雑草地上部の伸長を抑制し、それを草刈りに代替させようとする方法
- ③不織布、ビニール、アゼカバーシート、防草シートなどの被覆資材によって光を遮断し、雑草の発生や伸長を抑えたり枯死させたりする方法
- ④土壌モルタル工法

によるものなどがあります。

このうち薬剤処理は、周囲に栽培作物や水路があることから、周囲へ薬剤が飛散し、圃場内へ流れ込む心配があります。また薬剤が高価であり、経済的に成り立たず、過度の使用によって畦畔法面を崩すおそれがあります。被覆資材によるものは、比較的平坦な地域の小規模な畦畔法面では有効な対策ですが、勾配が大きく畦畔法面面積の大きい傾斜地水田では、整備コストや施工上の問題があり、資材の選択や施工方法、施工後の管理について検討を要します。さらに、景観上好ましくない場合があります。

そこで、このような従来の畦畔管理に代わり、グランドカバープランツを畦畔法面に植栽して、草刈り作業を軽減しようとする取組みが全国各地で行なわれています。

**グランドカバープランツとは、地面を低く覆うように生育する植物のことで、草丈が低いもの、または刈り込みによって草丈を低く維持することが可能な植物です。**草本、木本の別や自生、園芸植物などの種類を問わず、これまで公共施設や公園、各種構造物などの緑化に植栽されてきました。これらの植物を畦畔、法面に植栽し、早期に土壌面を覆い、雑草の発芽、生育を抑えて除草管理作業を軽減したり、景観形成を図ったりしようとするものです。



センチピードグラス



ヒメイワダレソウ

	逸出		持続性
	水田（湛水）	畑（非湛水）	
センチピードグラス	ほとんど逸出しない。（水の溜まった場所には逸出しない。）	匍匐（ほふく）茎で数m逸出することがある。畑に逸出した匍匐茎は耕うんで防除可能。	年3回程度の刈り込みをして、雑草の侵入と遷移の進行を抑えれば、持続性は高いと思われる。
ヒメイワダレソウ	ほとんど逸出しない。用水路の水中でも発根する。	匍匐（ほふく）茎で1m以上逸出することがある。畑に逸出した匍匐茎は耕うんで防除可能。	年2回程度の刈り込みをすれば、畦畔の雑草発生が強く抑えられ、群落が維持できるようである。

グランドカバープランツに関するお問い合わせは、協議会事務局までお願いします。